

現在及將來に於ける鋼材品別需要高

(備考)

- ① 大正七年以後の消費見込金は、特別要見込額及び普通消費見込金の計算上同一の算式に依りて(原片・銅線、銅板、電鍍品及鋳造品、リチウム、訂綴及書籍類から電気支持材の五種類に加えて)増徴費額/増減費額)とす。此表を決定するときは常に需要減少となり實際の場合と異なるものと認めらるゝとして従つて(原片・銅線・銅板)増減率を見出し(即ち大正七年度の年五箇半期の増加額は明治四十一年より大正二年に至る五年間の額の増加額)一なる係数となして計したとき、從つて舊々の消費見込金合計したものと同様のもの者の消費見込金とは相違ないとする。(全戦費見込表中中括弧内の數字は品別別の必要見込金の割合を示すものに當り此品別所要高額の総材料費總和與其のものに輸入差額の和を費量に見出して計算した。)。
- ② 内地産物は八幡製鐵所(鋼片、銅塊、銅棒、銅箔)、朝鮮製、日新製鐵、華族、淺田炭、その他他國產建設材料、滿洲(金石製造所)(煉鋼、形鋼、軋鉄)/日本鋼鐵會社(煉鋼、綽号)/文才館所(鋼管)度、日本實業公司(鉛)等の種類與計する。
- ③ 鋼片、銅塊の輸入額(昭和三十三年)より同前四年迄の數量には増減率を含む。
- ④ 鐵及廢料中の餘分は内地產剩餘の原料として使用せらるゝもの多し。
- ⑤ 第五戰費用三十四年)より第三十三年迄の輸入には增減率も含む。